ふるさと研究ニュース

2024年冬号第31号
文化財保護課
ふるさと研究グループ

冬季企画展

所沢の養蚕
～蚕・繭・糸・絹が語る昔と今～

蚕が繭を作るための回転蔟（かいてんまぶし）

会期：令和6年1月30日(火)～3月10日(日)
午前9時～午後4時30分（月･祝休）
2月11日(日･祝)は開催、12日(月･振替休)・23日(金･祝)は休み
会場：生涯学習推進センター 3階 企画展示室・常設展示室

養蚕は、1950年代までは所沢の主要な産業の一つでした。蚕を育て、繭を取り、糸を引き、絹を織る…。時代とともに変化しながら、今なお続く所沢の養蚕の今昔を紹介します。

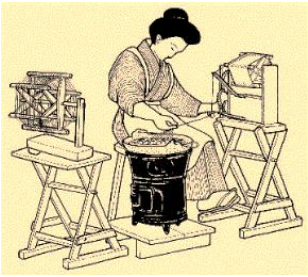
市民学芸員(ボランティア)による
展示解説
毎週土曜日・日曜日
午前11時～午後3時(随時)
※事前申込不要

関連講座
「所沢の養蚕ーモノ語り・コト語りー」

日　時：2月17日(土) 午前9時30分～11時30分
会　場：生涯学習推進センター　学習室201
講　師：宮本 八惠子氏　(所沢市文化財保護委員)
※詳細は、翔びたつひろば2月号をご覧ください。

関連事業
「養蚕用具を使ってみよう」

日　時：2月17日(土)　午後1時30分～
会　場：生涯学習推進センター
内　容：回転蔟（かいてんまぶし）の組み立て、蔟折機（まぶしおりき）をつかってみるなど
申込不要


糸繰りのようす
(宮本八惠子氏作図)

所沢市文化財調査報告書
『お蚕さま今昔物語』
― 記録・記憶・用具・現場でつづる所沢の養蚕 ―

1月末から有償頒布予定

稚蚕共同飼育所(昭和31年)

所沢市では、養蚕技術と用具について、後世につたえていくために、令和4年から5年にかけて、養蚕用具調査や養蚕農家への聞き取り調査等を行い、その成果をまとめた報告書を作成しました。その報告書を、有償頒布します。
頒布場所：所沢市文化財保護課 所沢市並木6-4-1 生涯学習推進センター4階

所沢市教育委員会　文化財保護課　ふるさと研究グループ
所沢市並木6丁目4－1　Tel：04-2991-0308　Mail：b29910308@city.tokorozawa.lg.jp

第15回所沢市伝統芸能発表会

伝統芸能発表会では、重松流祭ばやし、岩崎獅子舞の実演が見られます。

「**重松流祭ばやし**」は、所沢で生まれた古谷重松が編み出した囃子の流派で、特徴は、テンポの良さと屋台囃子の小太鼓2つ(地と絡み)の掛け合いにあるといわれています。

「**岩崎獅子舞**」は、岩崎村の地頭 宇佐美助右衛門長元が、大坂冬の陣の帰途、京都で3頭の獅子頭を買い求め、獅子舞の師匠を伴い凱旋し、村の若者に稽古をさせたのが始まりといわれます。

いずれも、昭和44年に所沢市無形民俗文化財に指定され、保存会の皆さんなどによって受け継がれています。

日　時：令和6年2月18日(日) 午後0時30分～3時30分　(開場予定：午後0時)

場　所：所沢市民文化センター　ミューズ 中ホール

出　演：重松流祭囃子保存会(北秋津囃子連・西所沢囃子連・山口囃子連・荒幡囃子連・日東囃子連・青年部)
岩崎獅子舞保存会

北大路魯山人も所沢に来た!?

〈ふるさと研究市民トピックvol.31〉

所沢の柳瀬地区に「柳瀬荘」という建物があるのをご存じでしょうか。ここは、かつて「電力の鬼」といわれた実業家、松永安左ヱ門(明治 8.12.1 － 昭和 46.6.16)の別荘でした。松永は、明治 42 年、福博電気軌道の設立に関わり、電気事業に着手、その後、九州電灯鉄道、東邦電力の経営者として活躍した人です。戦時体制下の電力国家管理に抵抗して敗れ、一時公職を退きましたが、昭和 24 年に電気事業再編成審議会会長として、第一線に復帰、電気事業の地域ブロック別民営化を推進しました。一方、美術品収集家、茶人としても知られ、還暦を迎えた頃、『論語』の「六十にして耳順う」に因む雅号「耳庵」を名乗り、近代小田原三茶人の一人としても知られています。特に引退していた頃は、柳瀬荘で、茶の湯三昧の生活を送っていたといわれています。

この柳瀬荘を、北大路魯山人(明治 16.3.23 － 昭和 34.12.21　本名/房次郎)が訪れています。松永は、茶の湯に入る以前から、魯山人とは、交友がありました。魯山人は、陶芸家、書道家、料理家、美食家など様々な顔を持ち、高級料亭・星岡茶寮を主宰していました。松永は、この茶寮などにもよく出入りしており、魯山人作の陶磁器なども購入していました。

昭和８年７月号(第 32 号)の『星岡』に秦秀雄の「柳瀬行」と題する記事が掲載され、柳瀬荘で松永が招待客をもてなす様子が、記されています。

「武州川越より三里ばかり手前、東京の方に寄った入間郡柳瀬村に、松永安左衛門氏の山荘がある。茫漠とした武蔵野の平原を、一望の中に見下す高臺の山林中に、百坪に餘る伽藍のやうな田舎家を新築したのはここの柳瀬山荘の御主人だった」

「五月三十日、餘り暑くならぬ中に武蔵野の新緑あまねき風情を見に来いとの御主人からの案内。誘はれたのは正木美術院長、小林一三、田邊加多丸、江守名彦、大村正夫、島田佳矣、中村有樂、瀬津伊之助、反町茂作、加藤辰彌の諸氏、それに北大路魯山人と小生。(中略)四臺の自動車で星ケ岡茶寮から目白を抜けて川越街道をドライヴしたわけだつた。」

「晩餐の仕たく、(中略)魯氏がひきうけ、松永さんの愛陶を根こそぎひつぱり出して魯氏に一任した御主人は、廣い庭内、二萬坪に近い大山林の中を涼しい顔して案内に立つた」

黄林閣(国指定重要文化財)

松永安左ヱ門の旧別荘「柳瀬荘」の主要建物。柳窪(現･東京都東久留米市)の大庄屋であった村野家の住居として、天保 15 年(1844)に建てられ、昭和 5 年(1930)に松永氏が譲り受け、現在地に移築。昭和 23 年(1948)東京国立博物館へ寄贈され、現在に至る。柳瀬荘内には、書院造の「斜月亭」や茶室の「久木庵」なども残されている。

柳瀬荘所在地：所沢市坂之下４３７番地

毎週木曜日 午前 10 時～午後 4 時(10 月～3 月は午後 3 時まで)、外観のみ公開、毎月第 2 木曜日(8 月を除く)は 10 時から 12 時は、かまどの火焚きを行っている。